



JCLIFE

2025年
10月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

9月公開例会



9月23日(火・祝)、しまなみ交流館テアトルシエルにて9月公開例会「命を守れ! 南海トラフ巨大地震に対する知識と心構えを備えよ」を開催いたしました。当日は京都大学名誉教授の鎌田浩毅先生をお招きし、第一部では「正しい知識が命を守る」と題して、南海トラフ巨大地震に関する最新の知見と備えの重要性についてご講演いただきました。

第二部では地震や噴火の映像を通じ、災害の現実を体感いただき、第三部は質疑応答形式にて市民の皆様の疑問に直接お答えいただきました。

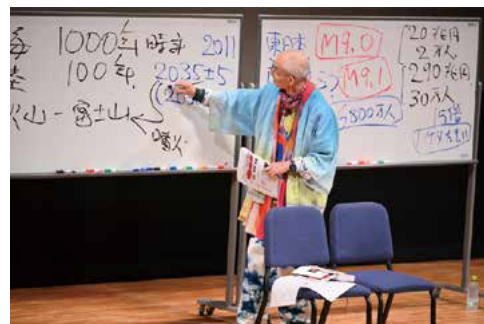
最終的な来場者数は600名には届かないものの、約400名の方々にご参加いただき、市民の防災意識を高める大変有意義な機会となりました。本事業を通じて「一人ひとりが備えることで命を守る」というメッセージを広く共有できたと考えております。

また、設営・受付・広報・チケット販売に至るまで、会員一人ひとりの協力があってこそ大規模な事業を無事に成し遂げることができました。

ご来場くださった市民、OB・特別会員の皆様、そしてご協力いただいた多くの団体・企業の皆様に心より御礼申し上げます。

今回の経験を糧に、今後も尾道青年会議所は地域に根差した活動を展開してまいります。

(記事・地域共創委員会委員長 原田寛)



第55回 広島ブロック大会 in 尾道



9月21日(日)、第55回広島ブロック大会 in 尾道が開催されました。

テーマは【ええ響 ～Your story - it echoes in history.～】。それぞれの個人や団体が様々な活動を通じて奏でてきた音が「ええ響」となり、各地に影響を与え続けますようにという願いを込めました。

式典、フォーラム、たからいち、大懇親会が盛大に執り行われました。当日は天候にも恵まれ、各LOMから多くのメンバーの皆さま、一般来場者の皆さまにお越しいただき、会場は大いに賑わいました。

式典には多くの青年会議所メンバー、ご来賓の皆さまにご参加いただき、大会の幕開けにふさわしい華やかなスタートとなりました。

地域交流フォーラムでは松川友和氏をお迎えし、「誰もが幸せになれるまちを目指して ～“楽しい”が地域を動かす～」と題してご講演をいただき、参加者は地域づくりの新たな視点を学びました。

たからいち「ええ響フェスタ」では、迫力ある書道パフォーマンスで幕を開け、ダンス、アートパフォーマンス、仮装&コスプレイベント「オノフェス2025」、サックス演奏など、多彩な「ええ響」が会場に広がりました。ラストにはシンガーソングライター・HIPPYさんが登場し、会場は大歓声に包まれました。

夜の大懇親会では、木々のライトアップが幻想的な雰囲気 연출。サプライズゲスト・19けんじさんの登場で、会場はさらに盛り上がりました。各LOMの卒業予定者の皆さまも大いに楽しみ、仲間とともに祝福を受ける姿が印象的でした。

本大会は、多くのメンバーのご尽力、そしてOB諸先輩方のお力添えにより、実りある大会となりました。心より感謝申し上げます。

本大会での成果を礎に、今後も地域に「ええ響」を広げる活動を進めてまいります。

(記事：広島ブロック大会実行特別委員会 幹事 高橋 佳裕)



新理事研修

2025年9月16日（火）、グリーンヒルホテル尾道にて、次年度の理事予定者を対象とした「新理事研修」を開催いたしました。

本研修では、第65代理事長である安楽城大作

先輩を講師としてお招きし、ご自身のJIC活動の歩みや、理事長としてのご経験についてご講演いただきました。

安楽城先輩が理事長を務められた当時は、新型コロナウイルスの蔓延により活動が大きく制限される中、様々な葛藤や苦悩を抱えながらも、効率的な行動や柔軟な思考をもって乗り越えられたご経験を、具体的にお話しいただきました。

ご講演後には懇親会を実施し、安楽城先輩からさらに貴重なお話を伺う機会を得るとともに、理事予定者同士の交流を深めることができました。

委員長予定者の皆様には、色紙を用いて来年度への意気込みを表現していただき、会場は一体感に包まれました。

本研修は、理事予定者にとって非常に有意義な時間となり、来年度に向けた力強い一歩を踏み出す機会となりました。

（記事・魅力ある組織づくり推進委員会委員長 高橋 諒祐）



室合同委員会

9月25日（金）、グリーンヒルホテル尾道にて、2026年度新体制での室合同委員会を開催しました。中島理事長予定者より、2026年度に向けたメッセージ

の後、各副理事長予定者・専務理事予定者からも来年度への意気込みが発表され、次年度委員会単位での初の委員会が行われました。委員会にて委員長予定者はメンバー一人ひとりに向けて次年度に向けた思いを丁寧伝えていきました。メンバーもまた

それを真剣な面持ちで受け止めていました。その後開催した懇親会では、新しい委員会メンバー同士親睦を深めつつ、2026年度に向けた笑顔溢れる良いスタートをきれたのではないかと思います。今年度もまだこれから事業が目白押しではありますが、良い事業を完遂し得られたものを次年度に引き継いで、尾道のまちとひとに焦点を当てた活動を展開してまいります。

（記事・2026年度セクレタリー予定者 浜本義武）



卒業生スピーチ



石岡 由 光

皆さんこんばんは。初めて見る景色に緊張しています。が、自分の思いを皆さんに伝えられたらと思います。まず、この場に立つて卒業生スピーチができることを、非常に光榮に思っています。今回、この場を準備してくださった理事長を始めとします事務局の皆様ありがとうございます。

まず、私がJCに入会したきっかけですが、ただ単に勧誘をすぐされたということです。1回目2回目3回目と、だんだんに人が増えるんです。1回目1人で来られて、2回目2人、3回目3人という形で、うちの接骨院の患者さんに、池田先輩がいっしょに、「石岡君入らないか」と言われて、外掘り埋められて「はい、分かりました」と、そういう形になりました。

まず、最初に幹事として配属された「夢見る大切な推進室 夢希望憧れ委員会」、高山先輩の委員会です。この時はコロナが流行って、リアルで会うのもどうかなという大変な時期で、例会などの公式的な活動をせざるを得ない年でした。その中で尾道JCとして花火を上げようという話が出て、花火を上げるということになりました。最初は1回だけかなと思っていたら、思いの外、寄付金が集まって4回も上げるということになりました。

そんな中、市役所や教育委員会などに行つて話をするようになりました。公の機関に行つて話をするということに切ったことのない私が、暢玄君と二緒に2人で教育委員会に行つて話をして、連絡調整をしながらやっていくことになるのですが、ここで絶対に忘れられないことがあります。最初は2人で行きまして、そつう話をする話ではない私ですからちよつと緊張しながら、暢玄君がどう話をする

のかなと、会話のラリーを見ていました。打ち合わせが終わつて下の階に下りたら、暢玄君がすごい満面の笑顔で「もうできるよねいってしょ」と言つてきて、その後本当に一人でいかざるを得なくなりました。あの時の暢玄君の笑顔は忘れられない。めちゃくちゃ満面の笑顔でした。

でも、その甲斐あつてか、普段だったら出会えないような小学校や中学校の先生と会つたり、話したりする経験になつたので、非常にありがたかつたなと今となつては思いますし、これが私の最初の修練だつたのかなという風に思っています。その節は暢玄君ありがとうございました。

花火を上げるとなると、非常にいろいろな団体との関わりが当然出てきます。行政だけでも、警察、消防、海上保安庁、いろいろな団体に許可を取りに行つたり話したりという風な中で、花火を上げるといふのはみんなが一致団結しなきゃ絶対できないような規模感の事業でした。一人一人のまパワーというのがすごく要求された年でもあつたかなと思います。

その中で自分が、教育委員会の件以外で覚えてるのが、御調町で花火を上げた時に、校長先生がすごく喜んでくれたことです。御調町ってどんどん人口が減つていて、祭りとか継承していく人も少なくなつて、イベントも少ない。昔は花火も上げてたんだけど、今では上げられなくなつた。JCさんが花火を上げてくれた、こんなに嬉しいことはないという風に校長先生から言われたんです。

そして、花火を上げた後には地域の高齢の女性の方から「久しぶりに御調で花火が上がつてとても嬉しかった」という手紙をもらつて、JCつて社会に対してすごく影響を与えられる団体なんだなと思つたんです。その中の員となつた活動ができたことはすごく誇りかつたのを覚えています。

その次の年は社会開発室未来ビジョン委員会、内海先輩の委員会です。ここでもたつJCの色というか、また違ったJCの魅力を感じることができました。

前年の花火を上げた夢希望憧れ委員会の時つうのは、僕の中ではみんな真面目でカッコイイ委員会だったんです。次の年の内海先輩の委員会になった時に、安楽理理事長が掲げられた「楽しくやろ

う」で、各メンバーから「楽しくやろうや」という掛け声があつたのを覚えています。それがあつたからか、一人一人が楽しむような事業だつたりアフターだつたりと、全力で楽しむような委員会だったなという風に思います。

なので、みんなが丸となつて何か大きなことをやろうとしていた前年から、今度はそういうこともやるんだけれど、みんな一人一人が楽しくやろうつていう風に、ある種対極な取り組みをしていた年だつたなというのが印象に残っています。

その次の年ですね。人材育成室会員拡大委員会、沼尾君が委員長で、拡大の委員会でした。この時から私の父親が病気がちになり、接骨院も一人でやらざるを得なくなり、会社の経営に携わることがなくなつたんです。この時には正直言うとなあつた委員会活動に携わることができなかつたというのがあるんです。沼尾君には非常に申し訳なく思っています。

ただ、この時に拡大をして入会をしてくれた人たちが、みんな委員長になつてくれていて、とても優秀な人が入つてきてくれたなつていう風に思っています。この時の拡大はすごく尾道JCにとつて成功だつたんじゃないかなという風に思っています。

その次ですね、中国地区コンファレンス特別室の中国地区コンファレンス実行特別委員会。この時は規模感が大きすぎて、なんだかよく分からないまま突つ走つてしまつたなという感じで、もちろん、自分の持ち場というか任せられたポジションをやるうと生懸命しましたが、いかんせん中国地区という規模の大きさにいろんな至らないところが出てきたりして、安保君と一緒に、お互いに励まし合つてやつた覚えがあります。

この時には、やはり修練つていうのはあるんだなつて感じました。人にあえて大きな仕事を任せて、その人に成長してもらいたい、いろんな思いを乗せながらその人に頑張ってもらいたいというところで仕事を任せるわけです。私が最初に二人で教育委員会に行つた時にもこれが修練なんだなつて感じましたが、この委員会でのことも同じように感じます。

その次は、地域の魅力創造室地域創造委員会、福本君の委員会です。前年の沼

尾君の委員会に所属して以降はJCに出たり出なかつたりを繰り返して、正直あんまり貢献できなかったなつていうのが僕の感想で、この場を借りてしんちゃんに謝ります。本当にごめんなさい。そんな中でも、すくしんちゃん自体が盛り上げてくれて、すごく楽しかつた思い出のある委員会です。

I ♥ ONOMICHI フェスタとか10代を中心にした新しい切り口で、すごい意義のある事業だったなと思います。あとは、I ♥ ONOMICHI フェスタで、国体選手に雨の降る中、土俵の上で、転がされたの思い出です。

そう、雨で思い出した。知つている方もいると思いますが、赤いペイマックスつていうワードが生まれたのは、中国地区コンファレンスの時のことなので、もし知らない方いたら狩野君に聞いてください。

ありがたいことに皆さんにかわいがつてもらいながら活動してきました。今年度は未来創造室総務広報委員会というところで広報活動、インスタの写真を撮影したりアップしたりしています。趣味で写真を撮つたり、最近では動画を撮つて編集したりというのに挑戦しているので、ちよつど自分のやつてることが事業とはまつていて、自分の力が発揮できる年なのかなというふうに思います。最後の年なので一生懸命やつて最後終わりたいという思いで、今やらせてもらっています。

今つらつと話してきましたが、今までのこの活動を通して私が思うのは、JCつてすごく優しいところです。優しいっていうのは、ちゃんと悪いこととか至らないことをしたら怒ってくれるし、よくできたらちゃんと褒めてくれるし、そういう優しさがある団体だと思ふんです。この優しさというのには時にすごく辛いときがあります。すし、かけられた期待に対して応えられないいけないつていうある種のプレッシャーになることもあると思いますが、実際に自分が青年経済人として社会に一步出た時に果たしてそこまで気にかけてくれる、声をかけてくれる存在があるのかつていうと、なかなかありません。もちろんそういう存在がある人たちは幸せなんだけれども、そつういった幸せな環境に身を置けるつていうことがこの尾道JCのすくしいところなんじゃないかなと思っています。

編集後記

先日の合同委員会で、ついに今年度の卒業生スピーチが始まりました！「もうそんな時期かあ…」なんて思いながら聞いていたら、あの人もこの人も卒業…と気づいて、ちよつとしみり。でも、しみりしている場合じゃない！事業はまだこれからが本番です。泣くのは年末、今は笑って駆け抜けましょう。次のスピーチも、今からちよつと楽しみます！

(記事：沼尾 一)

HP



facebook



Instagram



私が家業とかいろんな都合で出られないときもあつたけれど、やっぱり積極的にJIC活動に関わったことは、自分自身の成長にもつながりました。情性で出るということではなく、意識を持って出てくる方が皆さんの成長につながると思います。それにやっとなつた最終年でした。この場に立つてすごく偉そうなのを言っていますが、自分が最終年で一生懸命頑張ろうって参加しているから見えた景色かなと思います。

一生懸命自分自身が携わつていこうと思う瞬間もあると思うし、社業だったり個人的な事情で気持ち落ちたり、体がそっちに向かないっていうことはあると思います。それはそれでいいと思う。だけど自分がJICに携わつて活動できるという時になったら、一生懸命やつてほしいなというのが私からの思いです。

もう一つ伝えたいなと思うことは、ずっとフロアしかしてきていない人間なので、二方向の視点からしゃべることにはなるけれど、とにかく委員会メンバーというのは自分の所属している委員長を盛り立ててほしい。理事のメンバーもそうだけれども、委員長というのは時間や経済的な部分を一般のフロアよりもたくさん使つて活動をしているわけです。その時にフロアが委員長と同じ方向を向かないと、できるものもできなくなってしまうので、どうせやるんだら委員長をしっかりと盛り立てて、自分が配属された委員会のやろうとしていることを最大限頑張つてほしいと思います。

そうした時に逆に委員長というのはしっかりとフロアやその他副委員長を大切にしたいと思っています。お互いに思い合つてしっかりと活動していれば絶対より良いものになると思うので、気持ち合せてやつていけるようにしてほしいと思います。

正直ずつと何を喋ろうかなってこの2週間くらいずつと考えたけど、ここに立つと飛ぶね。思いつくままにつらつと喋つてしまつたけれども、とにかく、出られるときには一生懸命やつてメリハリつけて活動していきたいです。

私のスピーチはこれで終わりたいと思います。ありがとうございます。



小西 琢真

こんばんは、合同委員会の貴重なお時間を頂き、誠にありがとうございます。まず、自己紹介から始めさせていただきます。

(株)小西建築設計事務所

で代表取締役を務めさせていただいている小西琢真と申します。

昭和60年生まれで、スミレ幼稚園、久保小、久保中、尾道高校と、尾道で過ごしました。日暮君とはスミレ幼稚園から一緒でよく遊んでいました。こうして、同じ卒業予定者として卒業できることに不思議な縁を感じます。

大学は千葉にある大学に進学して、物理学を専攻していました。そこから紆余曲折あつて、福山大学の建築学科に社会人枠で入学して、建築を学びなおして、小西建築設計事務所に入社しました。

2018年は中島委員長のもとで、幹事として活動させてもらいました。中島さんにはその時からずつとお世話になりました。本当にありがとうございます。

この年は、平尾容疑者が向島に潜伏して、家族会が中止になり、豪雨災害で事業が中止になりと大変な年でした。ただ、豪雨災害の際には、市内の状況がグループLINEで共有されて、災害の時にはこのような横のつながりが本当に大切だと実感しました。

2019年は大本委員長のもとで幹事のような活動をしました。委員会メンバーも気を使つてくれて、アフターではいつも委員長におごってもらいました。この年で番印象に残っているのは、大本先輩の委員長ぶりです。去年も同じ委員会だったのですが、常にクールでドライな感じだったのですが、尾道の御寺の良さを熱く語ってくれて、委員長とはすごい職人だなと感じました。この年は、西国寺で例会をしたり、浄土寺でフエスをしたりと本当にいい事業を経験させてもらいました。

2020年は小川委員長の社会開発委員会に配属されました。この年にコロナが流行つてほとんど事業が出来なかったのですが、それでもべつちやう祭り参加と新春会議、小学校への防災出前授業を行いました。小学校への出前授業は、子供たちに喜んでもらい本当に良かったです。

2021年は私が総務広報委員会の委員長として活動させてもらいました。この時も中島副委員長には大変お世話になりました。森田幹事にはいつも話を聞いてもらい助けてもらいました。大本先輩には、他のメンバーを引っ張つてもらった。亀田君、松本先輩、岡先輩に沢山協力してもらいました。そして美ノ上先輩には、毎回JICライフの記事を書いてもらい、大好評でした。本当にありがとうございます。そして、JICライフ

の読者層の広さに驚かされました。

一年間ありがとうございます。メンバー皆に本当にお世話になりました。2022年は半田委員長のもと副委員長をさせて頂きました。

ドミノで繋がる家族会や山で遊ぶアソビ才等楽しい事業がたくさんありました。私とは真逆の委員長で半田委員長は楽しいことを考える天才だと思いました。自分に足りないものを色々と勉強させてもらった年でした。

2023年は安保副実行委員長のもとに配属されました。この年は安保君について、中国地方の色んなLOMにキャラバンに行ったのが印象的でした。中国地区コンファレンス当日はあいにくの大雨でしたが、最後は盛り上がり、良かったです。とにかくアフターが盛り上がり、良かった印象があります。

2024年は小林理事長のもと副理事長を拝命しました。岡村君が委員長で、まさかの体調不良でリタイアし、副委員長も出てこなくなつてしまつて、私一人でもまさかの委員長2年目になつてしまいました。最初はもう2回目だから何とかなるのかなと思つていたんですけど、何とかありませんでした。委員会メンバーの別府君と塚本君と田村さんと小田君と雅崇君、建太先輩に助けってもらいながら、特に雅崇君はフロアメンバーの中心で理事経験者で、助けになつてくれて、本当に上程資料作成ではお世話になりました。ありがとうございます。

別府君はアイデアマンで、いろいろアイデア出してくれました。幹事は3人いたんですが、別府君、塚本君、田村さんと3人がまとまつていろいろ助けてくれて、その中心リーダーとして塚本君が頑張つてくれて、本当にありがとうございます。

この時に作ったアカウントが実は今もまだ生きていて、ちょっと前に花火の時に高校生がそこで花火をアップしてくれました。多分、テンペイさんにも時々使ってもらっているみたいで、本事業で作ったアカウントが引き継がれて今も生きていてついでなのは嬉しいなと思つています。

そして今年。去年で完全に息切れしてしまつて、西田内委員長に申し訳ないなと思つています。ちやうど三人目の子でも生まれたということです。結構家事に専念できています。子育てに専念できてありがたいなと思つています。

委員会を見ていて思ったのは、正木君の幹事ぶりがすごい事です。私が委員長の時森田幹事

に、副理事長の時は塚本幹事に助けてもらつて、今、正木幹事が動いてくれています。その委員会の色というのか、その勢いは本当に幹事の皆さんで決まるといふのをつくづく思っています。正木君ありがとうございます。

JICを通していつも念頭に置いていることがあります。私が委員長を受けるときに美ノ上先輩に「必ず会社役に立つから。社長をやるんだつたら委員長は当然、委員長ができれば社長もできるから」というふうになつてくれました。それで委員長を引き受けた後もいろいろ相談をしていたんですけど、その時に言われたこともずつと心の中にあります。「JICで苦労したことは会社でも必ず何か役に立つ」と言われて、本当にその通りだなと思つています。

最初の委員長の時も2回目のおかわり委員長の時もいろいろな事業が詰め込まれて、スケジュールがもう一杯でした。周りの人に迷惑をかけながらも、最初の委員長の時には、中島さんとにかくお尻叩いてもらつて少しづつ進んでいくっていう感じでした。それが今すごい役に立っていて、仕事で忙しくなつてもあの時に比べたらまだできると思えます。

JICというのは初めてのことがばかりで、右も左も分からない中で上程資料を作つたり、イベントを考えたりというのを仕事や家庭のことをしながら活動するわけですが、それが仕事にすごく役に立ちます。これから皆さんもそうなるってほしいんですけど、仕事をやっていく中で自分の能力も必ず上がっていくと思つています。ここにいる皆さんは、ほとんど会社で重要なポストに就く人だと思つていますので、それぞれJICで得た経験を会社を持ち帰つて会社を発展させてください。

特に2回委員長をやつたことで余計に分かったのは、自分のリーダーとしての形が多分こうなんだろうなということです。結局、私は2回委員長やつても、人に助けてもらいながら、周りに話を聞きながらやつてきた人間なんで、多分これが私のできるリーダーの形なんだろうなというのを最近になって納得というか自分の中でしっくりきているところがあつて、それは今、社長としてやつていく中でずつと役に立っているなと思つています。

今、委員長をやっているみなさんはいろいろ大変だと思つています。自分がリーダーになった時の形つていうのは多分そこにあると思うんで、理想と現実のギャップがあるかもしれないが、そこら辺を自分で昇華して、成長していつてもらえ

らなと思っております。
私の卒業生スピーチは以上とさせていただきます。ありがとうございます。



まずはこの場でスピーチをさせて頂けるという事。とても嬉しく光栄に思っています。2016年に入会させて頂いて、10年間お世話になって参りました。多くの素晴らしい経験、そして、かけがえのない縁を頂いたことに感謝しております。

私は2016年に至るまで何度かお誘いを受けていたのですが、3度目の正直といった感じで、今でも何かと気をかけて下さっている麻生先輩にお誘い頂きました。今岡先輩が拡大委員長で本当に良くして下さいましたので、当時は30歳になったタイミングでもありましたから、ちょうどよい節目かなとも思いました。ですが、正直な話、そこまで一生懸命に活動するつもりもなく、今では吉田高正君しか同期は残っていませんが、「同期に裏切りはない」が合言葉でした。しかし今だからこそ感じるのは10年経った今でも、その同期入会の繋がりが残っていることが本当に嬉しいことです。同期の面々、そしてお誘い頂いた麻生先輩、今岡委員長に感謝しています。

ただ入会当時の心持ちがばれていたのか、幹事の年にとっても熱い委員長の元に配属、この場でスピーチが出来るのだと思います。一番根っこになるJCへの意識が変わったのが、その年だったように思います。メーカーキャブを駆使し、手術すらおして成し得た12カ月連続例会100%出席、こだわりにこだわつてやりぬいた映画祭と工藤委員長、意気込みが凄かった訳ですが、周りを巻き込む力、メンバーや事業にける情熱と愛は本当に見習う点が多かったです。工藤委員長はじめ工藤委員会メンバーの皆さん。本当にありがとうございます。

そうこう幹事としてフルでやっている最中、夏期講習の後に安本先輩から電話があり、セクレタリーの話を頂きました。この時はプライベートで色々あった精神的に病んでいたの、お引き受けするのが正解なのか分らない状態でしたが、結果的にこの判断で良かったと心底思っています。理事長の近くでJC活動の裏側や屋台骨を支える運営事務に携われたのは、JCのイロハを

知る凄く貴重な機会でした。様々な場面でケアをして下さった川崎専務、島田元太事務局長、政成財政。セクだけで旅行もしたりと二連托生な感もあった加藤セク、大前セク。そしてセクレタリーとして私を選んで下さった安本理事長に感謝しています。

セクレタリーとしての役割も慣れてきた頃に、委員長の話も出てくるわけです。この委員長の年が今にして思えば、一番やりがいのあった年に感じています。岡田元監督との秘話や中島副委員長と大阪で飲みに行った事、徳永先輩とのお伊勢参りなど色々な思い出がありますが、拡大の委員長を拝命して、第1回理事予定者会議の際に山北理事長から拡大20名必達と言われた時が一番印象深いかもしれません。あの一言があったからこそ必死さも出ましたし、委員会メンバーと同期委員長を中心にメンバーが一丸となって拡大に取り組んでくれました。そして、その年に入会してくれた面々が今、副理事長などそれぞれの立場で尾道JCを引っ張る存在として頑張ってくれているのが本当に嬉しく感じています。

2020年はコロナによる活動自粛の期間が長く、高山委員長と大西副理事長と所管事業に関して、色々話をしたことを鮮明に覚えています。一生に二度の委員長の機会をやり切つて欲しい。コロナで仕事が大変な最中、無理も言っていました。委員会メンバーで役割を全うして、花火を4か所で開催することが出来た事はJCだからこそ出来る、JCの底力を一番、強く感じた瞬間でもありました。高山委員長、大西副理事長。そしてあの委員会メンバーだったからこそ出来た事業だと思います。またエピソードが正直多すぎて、この場では語りつくせないですが、この時の同期副委員長+ゆうちゃんとの絆は私のJC史上NO1であり、一生続く関係だとWe Believeしています。皆さんがいたから、もうちょっと頑張つてみようと思えましたし、JC生活がより一層、記憶に残る楽しいものになりました。また京都に行きましょう。

花火の打ち上げが迫る中、加度先輩から電話があり、運営専務を引き受けて欲しいとお話を頂きました。ブロックの事を全く知らない身でありましたが、不安はあれど何とかなるだろう程度にしか思っていなかったのが運の尽きで、コロナの影響で2LOMの理事長・専務に電話をして一日が終わるという事が何度もあった記憶があります。当時「大変じゃね。何かあれば味方するけん」と声をかけて下さる安楽城理事長、

歌専務と電話をするタイミングがホツと息をいれられる時間だったのを覚えてます。また、その年はLOMでは山本委員長のもとで初の委員会メンバーとして活動をした年でもありました。2525プロジェクトは本当に事業を3つくらい詰め込んだ壮大なものだったので、やり切れるのかと心配した記憶がありますが、そこは山本委員長。流石としか言いようがないです。なかなかLOMの方にパワーを回せず、申し訳なかった年でもあったのですが、やりがいも多く尾道だけでなく広島県内に多くの仲間が出来る、自分の幅が広がった二年でした。加度会長はじめブロック事務局、役員団の皆さん。そしてブロック運営を支えて下さった尾道JCの方々には感謝しかありません。

コロナも少し落ち着きをみせてきた2022年は歌副理事長のもと村上直弘委員長、加藤副委員長のもとで活動することになるのですが、この時の委員会メンバーが2019事務局メンバーと幹事の時は打つて変わつて頼れる男感が滲み出ていた松本裕太先輩。そして異彩を放っていた翌年の前人未到トリプルアクセル記録保持者、高垣裕吉先輩でした。委員会メンバーとして出来るだけの事をしたつもりではありますが、責務みたいなものを感じる機会も少なくストレスフリーで楽しく過ごせたという印象の強い一年です。その分、副理事長・委員長・副委員長のストレスは凄かったのではないかと思います。近年でも1,2を争うほど高評価で今年の参考にもされたプロアカ、丸善製菓さんの協力で実現したフォトコン優勝者の写真がしまなみウオーターラベル化されるなど、その年だけでなく次年度以降に繋がる事業が出来た委員会だったと思います。

JCで一番しんどかった年。そしてその分、自分という存在を改めて見つめなおす機会を頂いたのが副理事長を仰せつかった年だったと思います。中間管理職としての私の力量が足りなかった事が大きな原因ですが、吉田理事長・山本専務には色々とお苦勞をかけたしまったと思います。その節は色々とし訳ありませんでした。悩みに悩んで、もうどうしたらいいか分からず、JCに初めて酔いづれば道端で粗相をしたこともありました。ですが、吉田理事長はじめ正副事務局メンバーやJCメンバー以外の方々のご理解とご協力で大成功したビジコンや6月例会などの事業は本当に良い思い出です。そして何より、島田委員長、藤田委員長の頑張りや熱意が本当

に凄く、尊敬すら覚えています。岡委員長の委員会運営が上手で、今まであまり参加していなかったメンバーも参加してくれ、心から楽しそうに活動していました。そんな中で私の方が学ぶことが多かった年だったと思います。

翌年、理事長をさせて頂いた年は逆にプレッシャーのようなものを感じる事があまりなく、二匙程の心配と後は信頼して感謝の繰り返しでした。予定者段階で加藤専務と4人の副理事長と相談をし、今までにない取り組みを色々試してみる。未来に向けて心躍る年にしていくという思いのもと、福本委員長、岡村委員長、高垣悟委員長、向井委員長、事務局メンバーをはじめとした全メンバーが本当に力を尽くしてくれたと感じています。どうすることも出来ないトラブルも多々ありましたが、そこは山本副理事長、小西副理事長、沼田副理事長、中島副理事長、そして加藤専務や事務局メンバーが上手にサポートして下さい、今となっては、それも笑える良い思い出となっています。そう思える年にしてくれたメンバーの皆さんに心から感謝を一番した年でした。そして誰よりも、緒に苦楽を共にしてきた最高の相手であり、無償で臨時事務局員すらも勤め上げた加藤専務。本当にありがとうございます。

そして最終年の今年。中委員長、福本委員長。委員会メンバーの皆さんに本当に良くしてもらつて、JC最後の二年を満喫させてもらっています。当初、安保副理事長含めた3人がどんな関係性を作っていくか分からず、委員会の雰囲気はどうなるか不安で仕方なかったのですが、ぶつかりながら、ストレス感じながらでも、同じ方向を見て前に進んでいくという姿に逞しさを感じています。残る10月例会と本事業も大成功させて、責任ある立場になる徳岡君、濱本君。来年度卒業となる田村さん。幹事明けて後輩のできる宮永君、福永さん。最後の年に緒になった委員会メンバーの更なる飛躍と何より来年以降もJC活動が楽しいと感じてくれるよう願っています。

10年を振り返ると本当に長くなってしまいました。この場だけでは語りつくせないほどの思い出をくれたOBの皆様、現役メンバーの皆様。感謝申し上げ、そしてJCから給料ももらえない、かつ、活動を続けてくれた家族に感謝をし、私の卒業生スピーチとかえさせて頂きます。本当にありがとうございます。